

ババアに狙われた若い巨乳のデカ乳輪～美点喪失の恐怖～



これは体験版になります。  
製品版の中から抜粋したシーンとなります。

某市。

〇月〇日に行われる市長選の立候補者が発表された。

この地域ではゆりこという女性が現職を務めているものの、ライバル政党であるXX党からすれば、快いとは言えなかった。

そこで、XX党は当選をするための計画を企てた。

選挙で重要となってくるのは、いかにして多くの人間から注目され、応援され票を得るか。つまり、そのような人材を立候補させれば良いだけのことだ。

打倒ゆりこを目論むXX党は、若くて美貌を兼ね備えた3人の女性——ひかる、うりん、あやかを送り込んだのである。



ひかるは現役のグラビアモデルで、コンビニなどにも並ぶ有名な雑誌の表紙を飾った事もある正統派の美人である。



言わずもがな、程よく大きく、かつ形も綺麗な胸に美しくびれを兼ね備えており、水着の似合う大胆かつ立派な身体付きの持ち主だった。

2人目のうりんはフィギュアスケート選手として、ニュースなどでも取り上げられるような人物だ。



しゅっとした綺麗な顔立ちをしており、その華やかさは目を惹くものがあった。





加えて、スケート選手とは思えないグラマラスなボディの持ち主でもあり、男女問わずファンも多かった。

うりんのおっぱいの揺れを動画で鑑賞しますか？ [l][r]

そして3人目はあやか。



テレビ番組やドラマ、映画などにも出演している、どこかあどけない印象を残した女優だ。

朝ドラでオーディションを通過し主演の座を飾ってからは、一気にスターダムを駆け上がっていった。





あどけない顔の一方で、胸はかなり大きく、女性らしい肉づきのある、2人とは違うグラマラスさを備えていた。

そんな彼女達が選挙へ参戦するとなれば、メディアというメディアが話題に取り上げる。

演説には人が押し寄せ、たくさんの人が「俺はひかるに投票する」「私はうりんさんだね」「いや～、どう考えてもあやかだろ！」と誰に投票するか、その意向を口々に述べる。

言わずもがな、中間発表の結果では3人はゆりこと大きな差をつけ、ベスト3を独占していた。

選挙事務局。ひかる、うりん、あやかの3人は中間発表の様子を3人揃って眺めながら話していた。

ひかる

「やっぱり選挙もチョロいわね。私の身体があればみんな釘付け」

ひかるはそう言って笑った。

うりん

「そうよね、男の人って顔と身体ばかり。他の人も有名なら投票するって...短絡的な思考！」

うりんは嘲笑を交えてそう言った。

あやか

「やっぱ顔と若さと知名度があればなんでもできちゃうのね～」

と小馬鹿にするようにあやかは声を上げた。

世の中、顔の良さ、大きな胸。美貌さえあれば何だって簡単にできる。

3人は事務所で中間発表の結果を眺めながら、口々にこう呟いた。

ひかる  
「チョロイわね」

うりん  
「簡単で単純」

あやか  
「らっくしょ〜」

美しさと共に生きてきた3人にとっては、人生なんてイージーモードなのだ。

そうして健康診断当日がやって来た。

市内の大型病院に呼び出されたひかる、うりん、あやかの3人が面倒くさそうな表情を浮かべてやってくる。

ひかる

「健康診断とか急すぎない？結果を公開するとか私のナイスボディが明らかになるだけよ」

ひかるは自らの自慢のボディと二つの形の良い、程よい大きさのぷるん、とした胸を誇らしげに見つめてそう言った。

うりん

「それにしても△△党の人間も考えていることが良く分からないわね。...なぜ、今更健康診断なんて行うのかしら」

うりんは選挙の途中に、急に健康診断を行うと言われたことが引っかかっている様子だった。

スポーツによって磨き上げられた、スタイリッシュなボディに、それと反した大きなたぶん...ぷるん、とした2つの乳房を揺らしながら歩みを進める。

あやか

「まあ何でもいいけどさっさと終わらせて帰りたいんだけど～」

あやかは暢気な声色でそう退屈そうな表情で言った。

...これから自らの身に起こる悲劇のことなんて、彼女たち3人は全く知る由もなかった。

そうして、3人は待合室に通されると、検査のために薄着になる。

服を脱ぐとシャツ越しにひかるのくびれが露わになる。  
美しい、まるで三日月のような綺麗なカーブを描いていた。

うりんも服を脱ぐと、スポーツマンらしいたくましい身体と胸の大きさがはっきりと伺える。

あやかもぽい、ぽいと服を脱いでいく。

はだけたシャツの隙間から可愛らしい桃色のレース付きのブラジャーがちらりと覗き、ふくよかな女性らしい胸がたぷんと揺れた。

3人はそれぞれ待合室で待たされていると、  
「ひかるさーん」と看護師が名前を呼ぶ声が聞こえた。

ひかるは「はい」と返事をする、看護師の後ろについて診察室へと向かっていく。

そんな様子を、ゆりこは監視カメラ越しに全て見ていた。



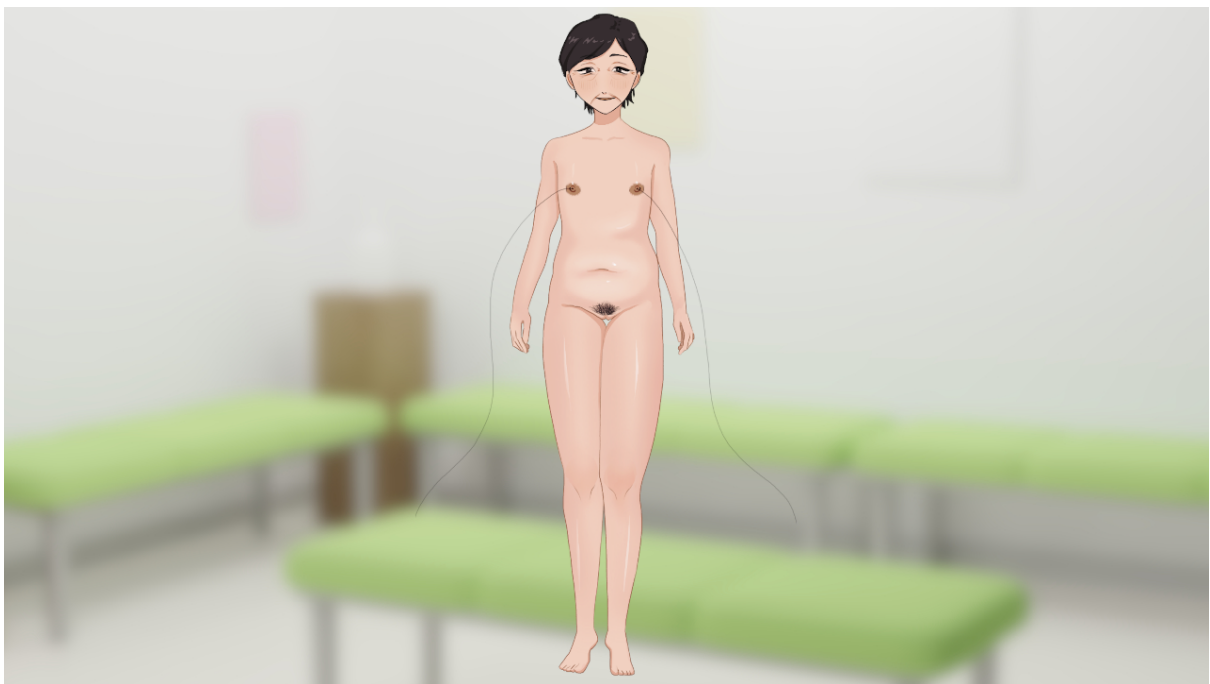


彼女は今、3人の待機している待合室の隣の部屋に待機しているのであった。

ゆりこ

「...暢気そうな女たちね、本当」

拳を強くグっ、と握りしめて独り言をつぶやく。



全身に吸盤のようなものや、チューブを取り付けられ身動きがとりにくい状態ではあるが、ゆりこはじっと観ていればいいとのことだ。

ゆりこ

「...党の人たちが言ってることが本当なら、あんた達の天下も今日で終わりよ...！」

ひかるが診察室に入っていく様子をカメラから眺めながら、ゆりこはニタァリ、と口元を緩ませるのだった。

ひかるは診察室に通されると、医者に  
「受診を始めるのでそちらにおかけ下さい」  
と声をかけられる。

言われたとおりにイスに腰掛けるひかる。

医者は聴診器を取り出すと、彼女に対してこう言った。

医者

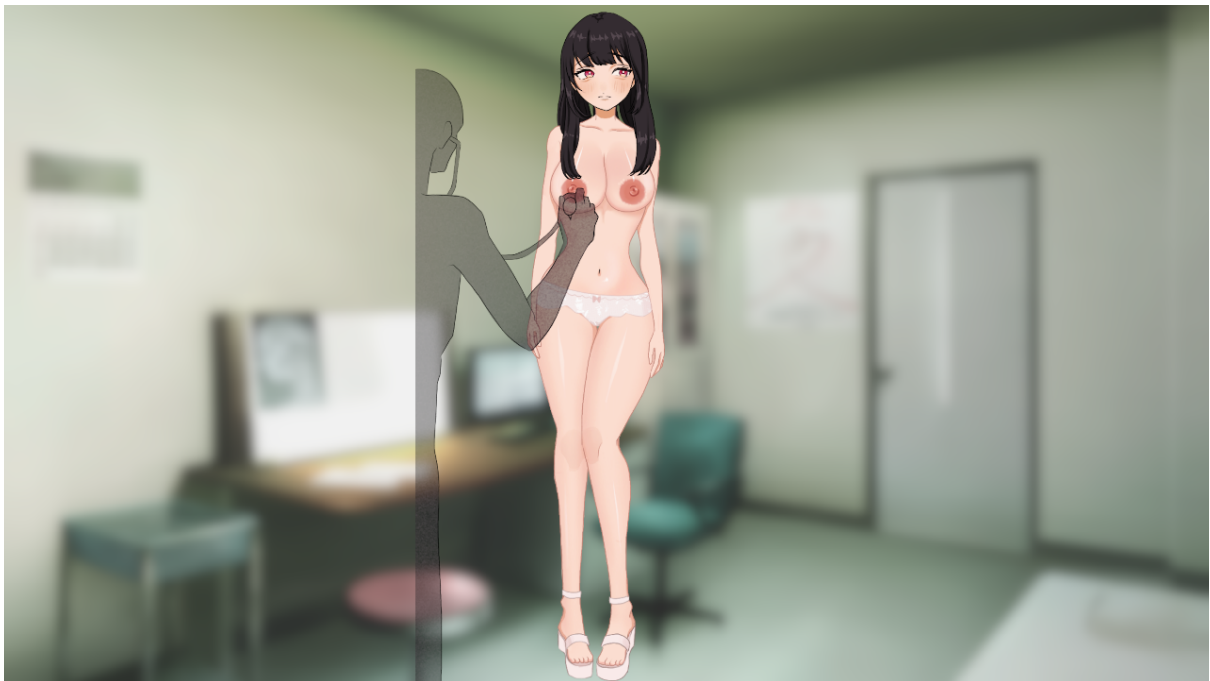
「では、服を脱いでもらっていいですかね」

ひかる

「えっ！？シャツだけで良くない...？」

ひかるは驚いた様子で医者にそのように聞くと、

「今回の健康診断では全身をくまなく検査させていただきます。選挙で地域のこれからを担う人間の身体に異常がないか、確かめなければなりませんからね」  
と淡々と告げた。



ひかるは渋々衣服を脱いでいき、下着だけの姿になる。  
彼女の綺麗なボディラインが露わになる。

医者は淡々と、機械的に  
「下着の方も脱いで下さい。裸になって頂きます」  
と告げた。

恥ずかし気な表情を浮かべて、ひかるはブラジャーの背中のホックに手を回して、外す。

そして下着に手をかけ、女性らしくも細く長い脚を右、左とするりと通していく。



ひかるが裸になったのを見て医者は  
「では、検査を始めるので改めてこちらにお座りください」  
と椅子の方に目をやる。

ひかるは突然のことに、困惑しながらも席に着いた。

そして、医者は触診をした後に  
「心臓の音を確認させていただきます」  
というと、聴診器をひかるの胸の突起の部分へと当てた。

ひかる  
「ひゃあんっ！」

思わず声を上げてしまう。

突然のひやっとした感覚にひかるは  
「なんでそこのよ...!？」  
と医者をにらみつけた。

と、その時だった。



医者は白衣で隠れて見えない部分にあるスイッチをかし、と押した。

と、ひかるの大きな胸に聴診器の肌に触れる部分が、突然ちゅううっ...！と吸い付くような感覚。

ひかる

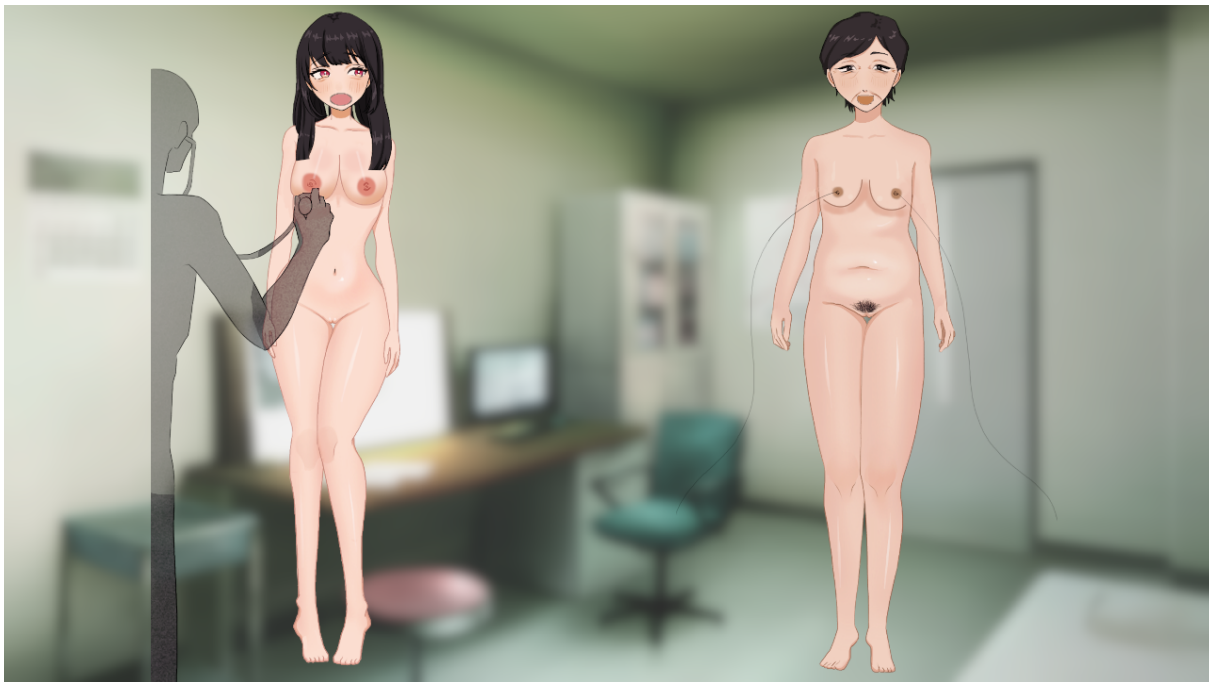
「あ...んあっ、ちょ、なにい...っ、んっ！」

乳首を吸われてしまっているためか、ひかるの全身にはぴりぴりとした快樂が走る。

と、聴診器の管の部分を使って何か吸われていく。

カメラ越しに見ているゆりこもこの光景には思わず驚愕の色を隠せなかった。

何せ、ひかるの自慢の胸が情けなく喘ぎ声を上げている内に、風船がしゅるしゅると萎むかのように小さく、胸が平たくなっていく。



実は医者が使っている聴診器は実は耳に先端が入っているように見えて、白衣の裏に管が何本も通っている。

そこの中を通して、吸い取ったものが通過し、ケーブルを付けている相手のものになる仕組みになっていた。

ひかるの胸だったものはゆりこの胸の方へと濁流のように流れ込んでいく。

そして、徐々にゆりこの胸は若いころのように大きく、丸みを帯びたものへと変化していった。

体験版はここまでになります。

続きは製品版でお楽しみください。

制作:charmswap

作者:master(from 吸収ド레인)

シナリオ:いぬごや

イラスト:ひいろ